

1 残したいもの、伝えたいもの

(1) 郡山市に残る歴史を伝えるもの

① 古くから伝わる地域の芸能(音路の三匹獅子舞)



富田町には、「音路の三匹獅子舞」とよばれる古い行事が受けつがれています。おどりは、毎年7月の最終土・日曜日に、太子堂のしき地で行われています。三匹の獅子は、大太鼓や笛の音に合わせて、腹につけた小太鼓をバチで打ちながらおどります。

音路の太子堂は、今からおよそ1000年前に建てられ、その後、400年前ごろから三匹獅子舞が行われるようになったと伝えられています。

富田町の小学生がおどっているんだって。どんな思いで練習しているのかな。



獅子舞をする小学生の話

毎年、2週間くらい前から、夜7時から8時半まで獅子舞の練習をします。獅子舞は、今までにしたことのない動きなので、なれるまではとてもむずかしいです。練習を重ねてできるようになると、おどっていて楽しいし、うれしい気持ちになります。地域の人も子どもたちと一緒に練習しているので、ぼくも大人になったら、次の人に伝えていきたいです。

音路太子堂三匹獅子舞保存会の人の話

音路の三匹獅子舞は、健康や家内安全など地域の人の幸福を願って始められました。富田東小学校の子どもたちが、獅子頭(お面)をかぶり、5種類のおどりを演じます。昔は、獅子舞が終わると、地域の人は4色の色紙がついた竹の枝を1本ずつ持ち帰り、不幸

な出来事が起こらないように、家の軒先にさしておきました。昔から続く獅子舞を、今も守り続けることができるのも、地域の人の協力や努力があるからです。これからも、たくさんの人々に楽しんでもらえるように、獅子舞を伝えていきたいと思っています。



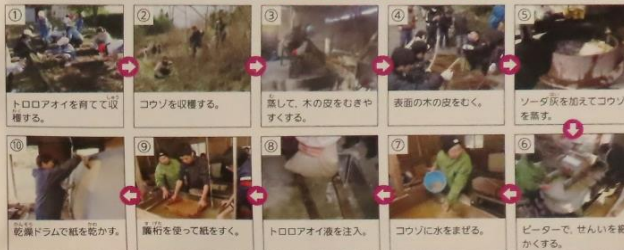
② 地域と学校で伝える民芸品(海老根和紙)



秋蛸とよばれる宵灯祭りの写真よ。灯りの周りをつつんでいるのが海老根和紙なのね。海老根和紙は、どのようにしてつくられているのかな。



《和紙づくり》海老根和紙ができるまで



③ 伝えていきたい祭り(うねめまつり)

うねめまつりにはどんな歴史があって、どんな願いがこめられているのかな。



うねめまつり実行委員の人の話

うねめまつりは、毎年8月のはじめの3日間にわたり、片平町のうねめ神社と郡山市の駅前大通りで行われています。約1300年前の奈良時代の「うねめ伝説」を伝える祭りです。昭和40年に、新しい郡山市がスタートしたのをきっかけに、「郡山市がさらに発展するように、市民が一つになれるお祭りを残したい」という市民の願いから始められました。当日は、片平町の「岩代郡山うねめ太鼓」をはじめ、約200の団体や多くの市民が参加し、祭りを盛り上げています。



「うねめ伝説」

① 遠い昔、郡山が安積の里といわれていたころ、春姫という美しい娘がいました。村を巡る役人の娘、春姫は、結婚を約束した若者がいました。



② そのころ、安積の里は天候が悪く、米や野菜がとれませんでした。そのため税を納めることができず、春姫の父親は、たいへん困っていました。



③ その夜、里の役人は王をもてなしました。村のために、娘の春姫も歌を詠んで王をもてなしました。すると、王は、春姫の詠んだ歌を大変気に入り喜びました。



④ 王は、税を三年間なくすことと引き換えに、采女(朝廷につかえる者)として、春姫を都に連れて行くことにしました。春姫は悩みましたが、村のために悲しみをこらえて都へ行くことを引き受けました。



⑤ 都へ行き、月日がたっても、春姫は結婚を約束した若者のことを忘れることができませんでした。そこで、春姫は、池に身を投げたように見せかけ、若者の待つ安積の里へ、ひたしました。



⑥ やっとの思いで安積の里にたどり着くと、若者はすでに亡くなっていました。春姫は、あまりの悲しさに、若者のあとを追って、片平にある「山の井清水」に身を投げてしまいました。













